

令和 2 年 度

特別養護老人ホームえんじゅ
事業報告書

社会福祉法人 伯和会

特別養護老人ホーム えんじゅ

令和2年度特別養護老人ホームえんじゅ施設運営方針

I. 施設サービス向上のために

- 1、法人の信条である「 奉仕 ・ 博愛 ・ 寛容 」を基本とし、えんじゅ理念「笑顔で明るく、元気良く、優しさを持って接します」「心地良い生活と環境を提供します」「自由で楽しい暮らしを目指します」の3つの柱をもとに、ご入居者それぞれのニーズに合った施設サービス計画書（ケアプラン）を作成し、今までの生活習慣や個人の意思を大切にするとともに、自己決定、自己選択や残存能力の活用を図ることで、少しでも自立した質の高い生活が送れるよう支援に努めました。
- 2、介護給付対象サービスとして、入居者に対し、入浴、排泄、食事等の介護、相談等の精神的ケア、社会生活上の便宜、日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上のお世話を提供しました。
- 3、社会福祉法人制度改革、費用負担の公平化、介護保険の改定など施設運営が大きく変化している情勢に対応する為、施設運営における課題、問題点の把握、検証と改善に向けた実践に取り組み、安定した運営と魅力ある施設作りに努めました。また、社会に対し社会福祉法人として求められていることを一つずつ実践していくよう努めました。加えて、職員の自己研鑽による一人一人の質の向上と、地域住民として共に暮らすことを視点とした開かれた施設を目標として、安らぎのある地域社会を作り出せるような施設運営を行いました。

《特別養護老人ホームえんじゅ 理念》

- ・笑顔で明るく、元気良く、優しさを持って接します。
(笑顔で優しい声掛けを行います)
- ・心地良い生活と環境を提供します。
(清潔保持に努めます)
- ・自由で楽しい暮らしを目指します。
(自己決定を尊重します)

《ワーカー心得》

- ・相手の立場になって物事を考えます。
- ・何故、どうしての問題意識を持ちます。
- ・分からないことはすぐ聞きます。
- ・積極的に行動します。
- ・情報を共有します。

えていることから、順次入れ替えやリース・レンタル契約により、必要数の確保に努めました。

VI. 地域との連携交流を行うために

地域との連携、交流の取り組み

コロナウイルス感染症の流行に伴う各種イベント中止により、当初予定した白石市福祉まつり・白石市福岡公民館まつりへの入居者製作作品出展及び、福岡地区敬老会への該当入居者の参加は中止しました。

VII. 安定的経営基盤の確保のために

1. 安定した収入の確保

- ・事前実態調査を実施することで退居後の空床期間を短縮し、一定期間内で円滑に入居が行えるようにしました。
- ・水光熱費、備品等の管理、見直しを適宜行い、経費節減を図りました。
- ・各種加算の整備を行い、取得できるように努めました。

2. 施設の設定・備品等の更新・改善

- ・入居者の重度化に伴い、各種福祉用具等備品の整備を行うと共に、状態に合わせた用具等を購入しました。

3. 人材の確保

- ・ハローワークへの情報提供を積極的に行いました。
- ・人事考課制度を構築し、職務態度や貢献度等に合わせた評価を実施しました。

4. 自然災害等防災対策に対する備え

- ・非常災害時（地震、火災、噴火等）を想定した研修や訓練を計画、実施し、非常時の入居者、職員が安全に行動し避難が行えるように努めました。

VIII. 人材育成ならびに業務改善に向けた取り組み

1. 職員が守るべき約束事を記した『クレド』と、クルドと連動した『伯和会職員の「自分ルール」』の小冊子を職員へ配布し、社会人として、また伯和会職員としての行動指針を明示しました。
2. コロナウイルス感染症流行を鑑み、多人数が集まる会議は中止し、書面での学習・課題提出に切り替え、職員の資質向上を図りました。

IX. 短期入所介護

短期入所中以外は在宅生活が主となる事を鑑み、在宅における生活と利用中の生活が出来る

限り連続したものとなるよう配慮し、利用者同士が相互に社会的関係を築き、自立的な日常生活を営めるよう支援しました。また、住み慣れた自宅やご家族らと離れる事による、心理的負担が大きいものと考え、一人ひとりと向き合い、そして寄り添い、個々のニーズにあった支援に努めました。

- ① 短期入所者の基本定員は原則 10 名とし、居宅支援事業者との連携を密にしながら受け入れ調整を実施しました。居室は専用の居室とし 4 人部屋 2 室、個室 2 室を使用しました。その時々のご利用者の方々の身体状況、精神状況などを重要視しながら、安心かつ安全な、在宅と施設の生活が連続性のあるものとなるよう支援しました。
- ② 施設サービス提供にあたり、ご利用者の皆様には介護支援専門員を中心とし、ご利用者の皆様の在宅ケアプランに添った施設ケアプランを作成しました。食事、入浴、排泄などその方に合った形でのサービス提供に努めました。また、入居時より、バイタルチェックを行うと共に自宅における状況、変化、必要な処置等の有無など確認し、利用者の皆様の健康管理に留意しました。
- ③ 日常生活支援については、一人ひとりの利用者の方々に併せた余暇時間を通しての協同作成物の一連の作業～掲示、レクリエーションの実施、季節に応じた行事の開催、手作り昼食会の開催など、個人の持つ潜在能力に働きかける支援内容にて、個人の存在意義の理解、役割のある日常を心がけ支援しました。退所時においては、短期入居利用中における生活の様子をお伝えし、在宅へ帰宅してからの生活が継続出来る様に支援しました。
- ④ 定期の利用者に加え、ミドルステイの受け入れ、緊急利用の受け入れ等に対応しました。
- ⑤ コロナウイルス感染症対策として、長期とのエリア分け、利用者のマスク着用、アクリル板の設置、濃厚接触とならない座席配置等を実施し、感染者を出す事無く事業を継続できました。

X. 業績

<資金収支>

事業活動収入	264,444 千円 (対前年度比 14,618 千円)
	(平成 31 年度実績 249,826 千円)
事業活動支出	255,466 千円 (対前年度比 6,816 千円)
	(平成 31 年度実績 248,650 千円)
事業活動収支差額	8,977 千円 (対前年度比 7,802 千円)
	(平成 31 年度実績 1,175 千円)

増減の主な要因

事業活動収入 長期入居については、年間居室稼働率 98.69%で、前年 95.31%より 3.38%の稼働率増となりました。要因として、事前実態調査を実施しておくことにより、退所者が出てから次の入所へ繋ぐまでの期間が短縮できたことと、年間退所人数が 11 名（前年度 24 名）と、前年度の半分以下であった事が稼働率増に繋がりました。チラー交換など、空調設備の修繕を行い、年間通して施設内の温度を一定に保ち、入居者の身体的負担を軽減できたことが、体

調不良者の軽減にも結び付いたと推測されます。

短期入所については、年間利用率が 81.31%で前年 78.25%より 3.06%増となりました。まずは 1 泊のお試し利用から本利用とする制度を廃止し、新規受け入れを柔軟かつ積極的に実施したことが稼働率増につながりました。

事業活動支出 大きな支出としてはチラー交換の他、突発的な配管・雨漏り箇所の修繕等での支出がありました。コロナウイルス感染症流行に伴うプラスチックグローブ等の価格高騰もありましたが、水光熱費や消耗品などを節約し、出来る限りの支出を抑えられるように努めました。その他としては、コロナウイルス感染症流行に伴い、外部研修へ職員を派遣できなかった分、研修費が抑えられました。

※令和 2 年度の稼働率・収入実績等につきましては、別添の「施設入所実績報告書」「短期利用実績報告書」をご参照ください。

令和 2 年度施設援助方針

I. 日常生活介護

施設サービスは、入居者一人ひとりの施設サービス計画に基づいて提供しました。入居者の意思を尊重し、自立支援を念頭に、個々のニーズに沿った支援に努めました。入居者の変化しやすい心身状況や日々変化する日常に併せて、適切なサービスの提供に努めました。

1. 食事

食事は、原則的に全員が食堂で顔を合わせて召し上がっていただきましたが、座席が隣り合わせで密の状態である為、感染予防の観点から今後の対策が必要な状況となりました。その他、入居者の状態に合わせて自助具等を使い残存機能を最大限に活用して、できる限り自力摂取ができるよう支援しました。食生活の重要性を認識し、管理栄養士による栄養ケア計画を作成し、入居者の健康状態を多角的に評価し、食からの健康維持・意欲向上を図れる事を目標に食事提供を実施しました。栄養バランス・味付け・調理方法等について、身体的条件、嗜好等を配慮し、入居者が健康で楽しい生活を送る上で最も大切なもののひとつとして提供に努めました。その時々季節も感じて頂ける様季節食や行事食も提供しました。

2. 排泄

排泄は、可能な限りトイレをご利用いただきました。そのために常にトイレの清潔の保持に努めるとともに、トイレ内にある手すりや緊急コールボタンを利用し、安心して快適に使っていただけるようにしました。また、個人の排泄パターンを把握するために調査を実施、排泄記録をつけポータブルトイレ、尿瓶等の活用、リハビリパンツ、尿取りパッド等とトイレ誘導の併用により、できるだけオムツを使わない方法を目指しました。オムツは、座位が取れない、尿意・便意が無い、入居者の体調不良等、やむを得ない場合に限り使用させていただきました。オムツ交換及びトイレ誘導は、各個人ごとに調査した排泄パターンを元に、時間や支援内容を設定し実施しました。

3. 入浴

一般浴槽故障中につき、機械浴（シャワーベッド）、中間浴（チェアインバス）の2種類の入浴方法を用意し、入居者の身体の状態に応じた入浴サービスを提供しました。入浴日は、入居者1人あたり週2回を基本とし、ゆとりをもった、楽しみのある入浴サービスを提供しました。入浴できない方に対しては清拭や衣類交換を行いました。

4. 着替え

入居者一人ひとりの身体の状態をよく見極め、衛生面に留意しながら着替えの支援を行いました。着替えを行うことで衛生面だけではなく、気持ちのリフレッシュを図りメリハリを付ける事で生活全体にリズムを取りやすくし、意欲の向上へ繋げられるよう支援しました。

5. 移動、移乗、体位変換

ベッド、椅子、車椅子、便器、浴槽等の間の移動・移乗は安全性を十分考慮し、入居者の身体の状態に合った方法で行いました。また、杖、歩行器、シルバーカー等の補助具を有効に活用し、できる限り自立移動ができるよう支援しました。

自分で寝返りをうつことのできない入居者に対しては、褥瘡（床ずれ）を防止するために、体位変換の介助、体位変換チェック表の使用も行い、確実に実施できるよう努めました。必要に応じて、クッション、エアマット、褥瘡予防マット等を使用しました。

入居者ごとの最適な移動・移乗および体位変換介助方法を、すべての職員が同じ方法で介助できるようにしました。

6. 口腔衛生

口腔ケアは、毎夕食後（誤嚥リスクの高い方は毎食後）に実施しました。入居者の状態に合わせて、必要なかつ適切な口腔ケア用品の使用を行い、歯磨き、うがい、スポンジブラシによる口腔内の拭き取り、義歯の洗浄などを支援しました。口腔衛生は、入居者の健康増進・維持に不可欠であるため、嘱託の歯科医師等の協力を得て、入居者の口腔衛生介助の充実を図りました。

7. 整容

整髪、爪切り、髭剃り等を適宜行いました。また、外出や行事の際には、ご要望により、お化粧品やお洒落のお手伝いをしました。

8. 介護用品の選定及び衛生維持、安全点検

ベッド、エアマット、クッション、車椅子、歩行器、杖、介護テーブル、ポータブルトイレ、入浴補助具等の介護用品については、使いやすさと安全性から選定し、その清潔の維持および安全点検に努めました。

II. 日常生活援助

施設での生活の充実を図るため、入居者一人ひとりの生活状況に応じた支援を行いました。

1. 居室環境の整備

入居者の意向を尊重しながら、心身の状態、人間関係に配慮しつつ、ご入居される皆様が快適な居心地の良い居住空間を確保できるように努めました。又、介護の安全性を確保するため、必要に応じて居室の変更を行わせていただきました。

2. 買い物及び代行

入居者のご要望に応じて、随時、外出による買い物支援の実施、何らかの理由により買い物ができない利用者の方々へは、日用品の買い物を職員にて代行いたしました。また週に1回近隣の商店（岡崎商店様）の協力をいただき、施設での買い物も出来るようにしました。

3. 洗濯

日常の衣類の洗濯、乾燥、居室への返却を行ないました。衣類の素材の状況に応じて、傷まないような適切な洗濯方法を選び、洗濯を行わせていただきました。

4. 理容

頭部の清潔とお洒落を楽しんでいただくため、原則として毎月第2月曜日、理容師によるサービスを提供しました（入居者実費負担）。ご本人の希望を伺い、理容組合の方々とも相談しながら、頭の形や髪質などにも気を配りながら行わせていただきました。（コロナウイルス感染症の流行に伴い、一時的に中止した期間がありました。）

5. 外出、外泊

コロナウイルス感染症の流行に伴い、外泊は中止し、外出についても原則通院等やむを得ない理由がある場合を除いて必要最低限の外出に留めました。

6. 金銭管理

ご希望がある場合は、現金、預・貯金の通帳、実印等の管理の他、施設利用料や公共料金等の支払い等を担当者にて適切に代行しました。（預り金等取扱規程に基づき、利用料を負担していただきました。）

7. 行政手続等の代行

入居者のご要望に応じて、市町村等に提出する書類の代筆、申請の代行、郵便物等の投函等を、その都度、担当者にて適切に代行しました。

8. 要介護認定に関する代行、認定調査の付き添い

要介護認定の更新・変更申請をご入居者、ご家族に代わって行いました。また、更新調査における付き添いを行わせていただき、ご本人の状況などを更に詳しく調査員の方へお伝えさせていただきました。

Ⅲ. 健康管理

入居者が健康で快適な生活を営めるよう、疾病の早期発見・早期対応に努め、生活の自立性を低下させないように支援しました。

1. 日常の健康管理

入居者の健康状態の細かな観察に努め、嘱託医および協力病院への連絡、職員間の情報交換を図りながら、健康維持に努めました。

2. 定期健康診断

胸部レントゲン撮影、心電図、血液検査を、年に1回実施しました。

3. 体重測定

毎月実施し、前月との著しい増減等がないか確認しました。体重変化に著しく違いが生じる入居者や、栄養状態のチェックが必要な入居者に対しては、その都度実施しました。

4. 体温・血圧・脈拍等の測定

週2回の入浴前に定期的に体温、血圧、脈拍等の測定を実施しました。その他、体調に変化が見られた際は必要に応じ、定期的に測定を行いました。

5. 食事・水分摂取・排泄の把握

チェック表により、毎日の食事・水分の摂取量を把握しました。摂食不良時は、医師の指示の下、看護職員、管理栄養士、介護職員、介護支援専門員が連携して、その時の状態に合った食事提供（必要な栄養素の確保）・水分補給ができるように対応しました。

その後の経過をみながら食事内容については必要に応じて調整を行い、食事摂取量の安定に繋げていけるようにしました。

便秘時には下剤の服用の他、なるべく自然排便を促すような漢方のお茶や乳酸菌飲料等を提供し排便のコントロールを行いました。

6. 医師の診察

月4回、主治医（内科医）が来診する他、月に1回、精神科医が来診しました。通院あるいは入院しての診療が必要な場合は、看護・介護職員が付き添い、施設車両にて送迎をしました。

7. 口腔衛生

入居者の状態に合わせて歯科医師の指導・協力のもと、入居者一人ひとりの口腔衛生状態、支援内容の充実を図ると共に、誤嚥性肺炎の予防等に努め

ました。

8. 服 薬

医師の診察のもと、病状に応じて、入居者に服薬していただきました。

9. 医療機関との連携

協力医療機関や入居者の主治医との連携を密にし、日常の健康管理について適切な指示を得るとともに、緊急時の受け入れ先を確保しました。（救急車を利用する場合、他の医療機関へ搬送される場合もありました。）

10. 夜間緊急時の対応

看護職員が不在になる夜間・早朝帯の入居者の容態の急変に待機の看護師が対応しました（オンコール体制）。

11. 感染症等の予防

新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、面会の制限、外部からの立ち入り制限の他、施設内環境の消毒実施、エントランスへの手洗い場の設置、面会スペース・休憩室・ショート食堂へのアクリル板設置、長期とショートステイの居室の区分けを実施しました。

11月には、希望する入居者に対してインフルエンザ予防接種を実施しました。高齢者施設で発生すると蔓延しやすい疥癬や食中毒等は、とくにその予防に努めました。

12. 職員の健康管理

年2回の職員健康診断を実施するとともに、日々、職員の健康管理に努めました。直接処遇の介護職員については、年に2回腰痛検査を実施しました。

令和2年度嘱託医・協力病院

令和2年4月1日現在

《嘱託医》

1、内科医

水野内科クリニック

水野圭司 先生 毎週月曜日 午後
水野友貴 先生

2、精神科医

仙南サナトリウム

渡辺吉彦 先生 毎月第三金曜日

3、リハビリテーション担当

柔道整復師

黒木雄大 先生 毎週水曜日

《協力病院》

1、刈田総合病院（白石市）

2、歯科医

広瀬歯科医院

廣瀬清憲 先生 随時

令和 2 年度 消防訓練実施状況

避難が困難なご入居者が多い為、定期的な訓練を実施し、ご入居者及び職員に対し防火、防災意識の高揚と地域消防団、地域住民の協力体制を推進し確立する事を目指しました。

1. 非常災害対策計画に基づき、個別の防災対策の周知徹底に努めました。
2. 個別の避難方法を確立しました。
3. 夜間及び休日の防災体制を確立しました。
4. 消防設備器具、危険物施設の定期的な点検に努めました。
5. 災害時の非常食については、常時三日分を備蓄、保管しました。
6. 緊急連絡網の確立を図りました。

<避難訓練>

- | | |
|---------|---|
| 1. 日時 | 令和 2 年 6 月 24 日 (水) 16 : 00 ~ |
| 2. 目的 | 施設入居者の大半が障害を持ち、寝たきりや車椅子、杖などを使用しています。これらの特殊性を鑑み、災害に対応する為、えんじゅ併設施設の特別養護老人ホームみずきやケアハウスやまぶき・デイサービスセンター茶園及び白石市総合福祉センターとの共同防災により、通報、避難、誘導を行うことで、防災体制の確立を目的として行いました。 |
| 3. 訓練内容 | 放送訓練・消火訓練・避難誘導訓練・非常持ち出し訓練 |
| 4. 出火時間 | 午後 4 時 (想定) |
| 5. 出火場所 | 特別養護老人ホームえんじゅ 地下機械室 |
| 6. 避難場所 | えんじゅ正面玄関前・えんじゅ西側非常口付近 |
| 7. 職員構成 | 職員勤務中による訓練 |

<夜間想定避難訓練>

- | | |
|---------|---|
| 1. 日時 | 令和 2 年 11 月 11 日 (水) 15 : 45 ~ |
| 2. 目的 | 空気の乾燥が増し、火気の取り扱い機会も増える時期となる為、火災への注意を促し、より一層の防災予防の意識を高めることを目的としました。えんじゅ併設施設の特別養護老人ホームみずきやケアハウスやまぶき・デイサービスセンター茶園及び白石市総合福祉センターとの共同防災で実施し、通報、避難、誘導を行うことで、防災体制の確立を図りました。 |
| 3. 訓練内容 | 放送訓練・消火訓練・避難誘導訓練・非常持ち出し訓練 |
| 4. 出火時間 | 午後 3 時 45 分 (想定) |
| 5. 出火場所 | ケアハウスやまぶき地下 2 階機械室 |
| 6. 避難場所 | えんじゅ西側非常口付近 |
| 7. 職員構成 | 当日出勤職員・当直職員による訓練 |

施設入所実績報告書

利用年月：令和2年4月
 サービス：51 福祉施設
 事業者：特養 えんじゅ
 表示項目：収入実績等

1. 収入実績

令和2年	介護サービス費				特定入所介護サービス費						合計	平均/日			
	保険請求	利用負担	公費負担	公費請求	食費			居住費					軽減額		
					保険請求	公費請求	利用負担	公費請求	保険請求	公費請求				利用負担	
今月(4月)	15,457,940	110,703	1,524,321	48,966	1,461,588	47,700	772,200	916,499	0	582,620	18,140	618,475	20,718	21,538,434	717,947
先月(3月)	15,770,959	105,342	1,552,309	60,000	1,492,160	51,900	787,540	948,533	0	604,210	24,495	614,066	25,777	21,985,737	709,217
平成31年4月	13,684,848	115,261	1,415,046	45,825	1,359,930	54,000	665,730	856,330	0	498,240	15,475	590,912	60,001	19,241,596	641,386

2. 利用者介護度別

要介護度	平成31年度 4月	令和2年度												合計	平均/月		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
		要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
要介護2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.00
要介護3	8	6	6	6	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8	7.17
要介護4	35	31	31	31	30	29	30	29	32	31	31	31	31	31	31	31	30.58
要介護5	16	23	23	23	24	25	23	24	22	21	21	21	21	21	21	21	22.58
在籍計	60	61	60	60	61	61	60	60	62	60	60	60	60	60	60	60	60.42
総介護度	246	259	257	257	261	262	256	257	262	253	257	262	253	253	253	253	256.92
平均介護度	4.10	4.25	4.28	4.28	4.28	4.30	4.27	4.28	4.23	4.22	4.22	4.22	4.22	4.22	4.22	4.22	4.25
利用(在所) 日数 (60床)	1,646	1,791	1,857	1,786	1,845	1,855	1,800	1,853	1,709	1,827	1,822	1,800	1,860	1,832	1,860	1,860	1,801.25
	1,800	1,800	1,860	1,800	1,860	1,860	1,800	1,860	1,800	1,860	1,860	1,860	1,860	1,860	1,860	1,860	1,825.00
入院 実人数	4	0	1	0	0	0	0	0	1	2	2	1	2	1	3	10	1.67
延日数	42	0	3	0	0	0	0	0	20	9	35	28	28	28	28	123	20.50
外泊 実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
延日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
居室稼働率(%)	91.44	99.50	99.84	99.22	99.19	99.73	100.00	99.62	94.94	98.23	97.96	97.50	98.49	98.49	98.49	1,184.22	98.69
平成31年度 利用(在所) 日数	1,646	1,703	1,721	1,808	1,756	1,707	1,731	1,679	1,801	1,840	1,719	1,818	1,818	1,818	1,818	20,929	1,744.08
	1,800	1,860	1,800	1,860	1,860	1,800	1,860	1,800	1,860	1,860	1,860	1,740	1,860	1,860	1,860	21,960	1,830.00
平成31年度 居室稼働率(%)	91.44	91.56	95.61	97.20	94.41	94.83	93.06	93.28	96.83	98.92	98.79	97.74	97.74	97.74	97.74	1,143.67	95.31

短期利用実績報告書

利用年度：令和2年度
 サービス：21 短期入所
 事業者：特養 えんじゅ
 表示内容：利用実績表

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	24	24	26	22	23	21	24	28	24	24	23	25	288	24.00
利用延日数	294	285	276	253	255	250	240	225	209	211	222	246	2966	247.17
実収入	2,852,929	2,698,228	2,803,245	2,513,162	2,576,361	2,525,208	2,407,894	2,294,699	2,090,183	2,175,132	2,278,812	2,461,860	29,677,713	2,473,143
実収入/日	95,098	87,040	93,442	81,070	83,108	84,174	77,674	76,490	67,425	70,166	81,386	79,415	976,488	81,309
居室稼働率(%)	98.00%	91.94%	92.00%	81.61%	82.26%	83.33%	77.42%	75.00%	67.42%	68.06%	79.29%	79.35%	975.68%	81.31%
前年比(%)	160.66%	133.19%	161.40%	135.30%	108.98%	115.21%	73.17%	72.12%	83.94%	84.39%	91.24%	81.72%	1301.31%	108.44%

平成31年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	25	25	19	25	25	26	28	29	24	26	24	26	302	25.17
利用延日数	183	214	171	187	234	217	328	312	249	250	252	301	2898	241.50
実収入	1,686,390	1,926,290	1,562,560	1,735,760	2,215,790	2,026,800	3,326,386	3,081,501	2,403,842	2,340,513	2,433,603	2,907,198	27,646,633	2,303,886
実収入/日	56,213	62,138	52,085	55,992	71,477	67,560	107,303	102,717	77,543	75,500	83,917	93,781	906,226	75,537
居室稼働率(%)	61.00%	69.03%	57.00%	60.32%	75.48%	72.33%	105.81%	104.00%	80.32%	80.65%	86.90%	97.10%	949.94%	79.16%
前年比(%)	58.65%	77.82%	68.95%	77.91%	108.32%	121.91%	167.34%	150.72%	105.95%	122.55%	308.05%	222.96%	1591.14%	132.60%

平成30年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	33	31	30	31	31	27	30	36	34	28	18	19	348	29.00
利用延日数	312	275	248	240	216	178	196	207	235	204	79	135	2525	210.42
実収入	2,859,980	2,491,290	2,265,580	2,203,600	2,001,180	1,615,800	1,800,940	1,896,940	2,138,260	1,866,010	729,990	1,236,340	23,105,910	1,925,493
実収入/日	95,333	80,364	75,519	71,084	64,554	53,860	58,095	63,231	68,976	60,194	26,071	39,882	757,163	63,304
居室稼働率(%)	104.00%	88.71%	82.67%	77.42%	69.68%	59.33%	63.23%	69.00%	75.81%	65.81%	28.21%	43.55%	827.42%	68.95%
前年比(%)	208.88%	176.01%	153.21%	141.69%	101.95%	96.53%	93.07%	112.27%	122.89%	102.00%	42.27%	57.61%	1408.36%	117.36%

令和2年度
特別養護老人ホームみずき
事業報告書

社会福祉法人 伯和会

特別養護老人ホームみずき

施設基本理念

「愛をもって心を込めて安心できる当たり前の暮らしが送れるよう支援します」のもとユニットケアとしてご入居者の個々の状態・生活リズムに合わせたケアを確立し他職種との連携を密に深めることで個別性の高い、手厚いサービスを提供していきます。

施設運営方針

・安定した施設運営

定員 30 名。介護報酬で人件費が増大する中、入退去時の空床期間の削減、入院者を出さない為の健康管理、加算の取得、経費の削減に努めました。

施設内設備の交換、外部への業務委託にて備品修理費等の削減と職員の業務改善（有償ボランティアの活用）を行いました。

(1)施設整備計画

問題発生が予測される箇所及び水周り等の点検を行い、計画的に整備を実施する。（外回り・エアコン・トイレ修繕等）

⇒令和 2 年度においては、洗濯機乾燥機の業務用又はガス式への機器交換を行いました。

(2)備品・設備整備計画

(i) 介護機器、レクリエーション等に必要な備品を整備・入れ替え・補充を行いました。

（ベッド、マットレス、エアマット、リクライニング型車いす、歩行器等）

⇒令和 2 年度においては、マットレス・エアマットを補充しました（リース）

(ii) 消防設備については年 2 回の専門業者による定期点検の実施と、不備箇所が確認された際は早期の修理・更新実施により、安全対策を徹底しました。

⇒令和 2 年の点検では、異常なし

(iii) 車両の法定定期点検のほか、日常のエンジンオイル交換やタイヤ点検などを励行し、必要があれば適切に修理・交換を実施し、常に安全に運行しました。

(iv) 各ユニットの備品を適切に管理し、使用に耐えなくなったものについては速やかに処分し、適切に入れ替え等を行いました。（ソファ・テレビ・炊飯器等）

⇒令和 2 年度においては、処分品なし

(v) 前各項のほか、建物内外のおよび周辺環境の整備、修繕、点検を定期的に行い安全・衛生の確保しました。

・人材育成と連携を活かした職場づくり

人材確保の為、学校・ハローワークなどへの連携情報提供をおこないます。しかし、現状では確保困難な為、現職員の育成と定着化が必須と考えます。

外部研修への積極的な参加等を通じて、意識改革や向上心のボトムアップを図り、誇りを持てる職場づくりに努めました。

- (iv) 嚥下食についても内容の充実など食欲増進と安全面の両立を図りました。
- (v) 異物等の混入の防止、感染症等に伴い適切な加熱、常に清潔で衛生的な厨房環境の整備に心がけ、安心安全な食事を提供しました。

③機能訓練

兼務の機能訓練指導員（看護職員）と整備師による個人の状態に適した機能回復訓練をおこない身体機能の維持、回復を図りました。

④安全管理

- (i) 年 2 回以上(うち 1 回は夜間想定)の避難訓練の実施のほか、消防署・地元消防団とも密に連携を図り緊急時の対応に備えました。また、火災・地震・風水害・土砂災害等を想定した避難訓練及び連絡網等の非常時に備えた体制を取りました。
- (ii) 防災備品、非常食を適正に管理し、消費期限の到来するものは定期的に更新しました。

⑤行事、地域交流等

- (i) お花見や買い物を含むドライブ等屋外活動を行いました。
⇒新型コロナウイルス感染症の為、未実施
- (ii) 誕生会、クリスマス会、節分など各ユニットにおいて行事を行いました。時には複数ユニットで共同実施し、ユニット間の親睦を深めるよう努めました。
- (iii) 地元ボランティア・保育園児の訪問・地域交流活動を継続しました。
⇒新型コロナウイルス感染症の為、未実施
- (iv) 家族交流会等の実施によりご入居様との交流を図りました。
⇒新型コロナウイルス感染症の為、未実施
- (v) 外部理容師による施設内散髪を定期的におこないました。
⇒新型コロナウイルス感染症の為、毎月ではなかったが可能な限り対応しました。

特別養護老人ホームみずき 令和2年度年間行事報告

目的：入居者様同士の交流の場を設けることで、身近に友人を感じていただくとともに
離れて暮らすご家族様と行事を通して交流を持ち、
施設生活の中で、楽しみや生きがいを見つけ出していただけることを目的とします。

4月	花見	ユニットごとに施設内外の桜の花見を楽しんでいただきました。	新型コロナウイルス感染症の為、 枠外※は全て中止しました。
5月～7月	フリー月間	ユニットごとに誕生会など実施	
8月	七夕	ユニットごとに仙台七夕に合わせて入居者様一人ひとりに短冊へ願いを書いていただき竹へ飾りました。	
9月	敬老の日	全体行事として、人生の先輩である入居者様へ対し感謝の気持ちを込め実施しました。	
10月	芋煮会	全体行事として、旬の食材を使用することで、季節感を感じていただけるように実施しました。	
11月	フリー月間	ユニットごとに誕生会等を実施しました	
12月	クリスマス会	全体行事として、お食事を楽しみながら、Xmasの雰囲気味わっていただけるよう実施しました。	
1月	書初め	ユニットごとに新年の抱負を書いて飾りました。	
2月	豆まき	ユニットごとに誕生会等を実施	
3月	ひなまつり	ユニットごとに雛祭りの飾りつけをしました。	

※その他、ユニットごとに入居者様の要望などを取り入れながら、自宅への外出、市内への買い物や散歩などの外出を行います。

※地域交流として、入居者様の希望を踏まえて市内で行われている催し物や行事への参加を行います。

※4月から11月の予定で定期的に各団体に慰問してもらいます。

令和2年度
デイサービスセンター茶園
事業報告

社会福祉法人伯和会

デイサービスセンター茶園

運営方針

法人の信条である「奉仕」「博愛」「寛容」を基本とし、ご利用者の人権・人間性を尊重して在宅福祉サービスの目的と意義の実践に徹しました。「安心・安全」「自立支援」「快適」といった基本に基づきながら、ご利用者の心身の特性を踏まえてその有する能力に応じた自立した生活が営むことが出来るよう支援するとともに、ご家族の介護負担軽減に寄与できる事業所となることを目指しました。令和2年4月1日より地域密着型通所介護に移行したことで、より身近な施設といわれるように努めました。

重点目標

- ・ 要支援・要介護者の心身の特性・生活環境・残存機能等を踏まえて、その有する能力に応じ自立した生活が営めるように支援しました。
- ・ 職員一人一人が自己啓発目標を掲げ、接遇及び介護技術の能力、質の向上を図りました。
- ・ ご利用者から「どのように見られ、思われているか」を常に意識してケアを行いました。
- ・ ご利用者側の視点に立ちできることを増やすことで、生活意欲が持てるよう支援しました。
- ・ 地域関係市町村・地域保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り総合的なサービスの提供に努めるとともに、より身近な関係者（民生委員、自治会長等）と定期的な運営推進会議を実施しました。

事業計画（地域密着型通所介護）

1 基本サービス主要実施概要

① サービス提供時間

・ 9時30分から16時30分の7時間。

送迎時間が朝夕とも1時間となることから、ピストンでの2便送迎も実施しました。

② 利用定員

・ 18名までとなります。

③ 相談指導

- ・送迎時や電話、連絡帳、茶園便り等を通し、相談や助言を行ないました。

④ 健康管理

- ・毎利用時に、表情などの状態確認、血圧、脈拍、体温の測定、月1回の頻度での体重測定を行い、各利用者の健康状態の把握に努めました。
- ・排泄状況・食事摂取量・水分摂取量・精神状態など観察しました。
- ・コロナウイルス蔓延防止対策として、朝の送迎時に検温と消毒、施設到着時の手洗い、消毒、車両の消毒清掃を毎回実施しました。

⑤ 機能訓練(レクリエーション)

- ・介護予防の観点からより効果的に心身機能の維持・向上が図れるよう、各利用者のレベル及び主体性を重視した内容のレクを実施しました。
- ・月1回程度の割合で行事を取り入れ、季節感や社会との繋がりを実感できるようにしました。
- ・ご利用者の趣味や特技を生かした活動を積極的に実践しました。

⑥ 入浴

- ・身体の清潔保持と精神的な満足感が得られるよう、ご利用者の身体状況に応じた入浴または清拭を行いました。また、入浴時の楽しみとして柚子湯や菖蒲湯など季節ごとの変わり湯を実施しました。

⑦ 食事

- ・ご利用者の嗜好並びに状態に応じた食事を提供しました。行事の際は、季節に合わせた献立内容を考え、見た目にも楽しめる食事が提供できるようにしました。

⑧ 口腔ケア

- ・口腔ケアの重要性について、職員・利用者・家族等に周知徹底しました。

2、職員の資質向上

- ① コロナウイルス蔓延防止から法人内の会議・研修会等のみの参加とし、福祉、介護に対しての知識・技術の向上に努めました。
と、自己覚知からの本質的な資質向上を行いました。
- ② 他施設見学がコロナウイルス蔓延防止対応の為行えませんでした。

3、地域との交流活動

- ① 地域と密接した在宅福祉サービスを図るため地域の習慣や風土を理解し地域の拠点としての福祉サービスのネットワーク作りに努めました。
- ② ボランティアの受け入れ、活用を行い、地域と顔の見える関係性を築こうとしましたが、コロナウイルス蔓延防止対応の為行えませんでした。

4、防災対策

- ① 伯和会災害マニュアルの周知を行い、災害時の対応、避難方法等について職員、ご利用者が迅速に対応できるよう避難訓練等を行いました。
- ② ご利用者、ご家族との緊急時の安否確認や連絡方法等を作成しました。

5、年間目標

- ① 地域密着型通所介護の利用定員は1日18名で越えてはならないと決まっている中、年間稼働率85%以上(1日平均15.3名)を目標としましたが、年間稼働率77%(1日平均13.8名)と目標には届きませんでした。背景として、ショートステイとの併用利用、長期入院、施設への入居などの状況があり、登録人数に対し安定した利用が難しい状況がありました。新規利用者獲得の為に市内外の介護支援専門員への働きかけ(空き情報提供や介護支援専門員との関係性作り)等実施、営業活動を行いました。他事業所でも利用枠が空いているような状況で、利用者の紹介も月平均1名程度で推移しており新規利用者獲得に繋げることが難しい状況がありました。
- ② 地域密着型への移行に伴い、各種加算の見直しを行い、介護報酬が最大限得られるように努めました。
- ③ 登録者以外の臨時利用についても、こちら側から利用者、ご家族の要望等を聞いて臨時利用の対応を行って、利用者数の確保に努めました。

6、設備、備品

- ① 脱衣場での更衣の際にちゃんと手すりとして使用できる箇所がない為、安全に動作が行える物品等の選定と設置場所について備品等の購入を行いました。
- ② 歩行器、車いすの利用者が重度化に伴い増加してきていることから、現物品で歩行器が不足している状況から購入を行いました。
- ③ 新たなレクや質の向上を図るため、高齢者介護をサポートするレクリエーション情報誌レクリエの年間購読の継続購入を行いました。

I. 令和3年3月最終週の登録者：定員18名

月	火	水	木	金		
16	16	16	17	18		
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
2	4	6	14	9	4	3
実登録人数 42名				延べ登録人数 83名		

※要介護度別人数は3月のレセプト情報より集計

※総合事業対象者の要支援1相当は要支援1、要支援2相当要支援2へ含む

II. 令和2年度利用状況 ※1か月延べ利用人数（ ）は一日あたりの平均利用者数

利用月	通所介護	前年度(元年)	予防、総合事業	前年度(元年)	1か月合計人数
4月	299 (13.0)	282 (14.1)	41 (1.7)	76 (3.5)	340
5月	258 (14.3)	261 (13.7)	30 (1.6)	78 (3.7)	288
6月	292 (13.2)	232 (11.6)	25 (1.1)	67 (3.4)	317
7月	328 (14.2)	257 (11.2)	47 (2.0)	81 (3.5)	375
8月	298 (14.1)	257 (11.7)	49 (2.3)	76 (3.5)	347
9月	262 (11.9)	265 (12.6)	50 (2.2)	73 (3.5)	312
10月	269 (12.2)	272 (11.8)	54 (2.4)	77 (3.3)	323
11月	246 (11.7)	260 (12.3)	52 (2.4)	73 (3.5)	298
12月	228 (10.8)	251 (12.6)	51 (2.4)	66 (3.3)	279
1月	211 (10.5)	218 (10.9)	51 (2.5)	56 (2.8)	262
2月	236 (11.8)	233 (11.7)	26 (1.3)	45 (2.3)	262
3月	287 (12.4)	264 (12.0)	30 (1.3)	41 (1.9)	317
年合計	3,214	3,052	506	809	3,720 / 元年度 3,861

III. 活動内容

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
4月	豆つかみ	春うた	取ったら負けよ	制作物	鯉のぼりゲーム
5月		割鍋閉蓋	ぐっとタイミング	知的レク	ナイスフィッシング
6月	さ傘でアタック	ペタンク	ふりふりゲーム	七夕制作	七夕制作
7月	七夕制作	ポケネット	頭の体操	スカットボール	夏祭り
8月	棒体操	豆つかみ	カーリング	文字あてサッカー	
9月	一網打尽	数字合わせ	ナイスフィッシング	ふりふり	季節の制作物
10月	季節の制作物	運動会	割鍋閉蓋	タオル体操	転がし卓球
11月	ペタンク	取ったら負けよ	ペタンク	カレンダー制作	カレンダー制作
12月	カレンダー制作	ふりふり	棒体操	年納めの会	数字合わせ
1月		正月遊び	干支作り	一網打尽	足運動
2月	鬼退治、豆まき	スカットボール	ひな祭り制作物	ふりふり	
3月	テーブルゲーム	足運動	豆つかみ	風船運動	棒体操

令和2年度

軽費老人ホーム ケアハウスやまぶき

事業報告書

社会福祉法人 伯和会
軽費老人ホーム ケアハウス やまぶき

令和2年度 軽費老人ホーム ケアハウスやまぶき事業報告

基本方針

軽費老人ホーム(ケアハウス)は60歳以上(但し、60歳以上の配偶者と共に利用する者についてはその限りではない)で所得を問わず、自炊生活が出来ない程度の身体状況且つ、家庭環境や住宅事情などの理由により在宅にて生活が困難な高齢者を入居させ、食・住などの日常生活に必要なサービスを提供し、生きがいを持って健康で明るい生活を送れるよう支援しました。

ケアハウスやまぶき 令和2年度事業報告資料

◎入居者の状況(令和2年3月31日現在)

人数 / 年齢

性別	人員	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男性	15名	93歳	68歳	80.5歳
女性	34名	95歳	69歳	86.8歳
合計	49名			全体平均 84.9歳

年齢階層別人員

年齢 / 性別	男性	女性	合計	比率
60～65	0名	0名	0名	0%
66～70	4名	1名	5名	10.2%
71～75	1名	0名	1名	2.0%
76～80	1名	5名	6名	12.2%
81～85	4名	5名	9名	18.4%
86～90	2名	14名	16名	32.7%
91～95	3名	9名	12名	24.5%
96～	0名	0名	0名	0%
合計	15名	34名	49名	

月別入居者数(毎月末日現在の入居者数)

月 / 性別	男 性	女 性	合 計	入居率
4月	17名	32名	49名	98%
5月	17名	32名	49名	98%
6月	16名	32名	48名	96%
7月	16名	31名	47名	94%
8月	17名	32名	49名	98%
9月	16名	33名	49名	98%
10月	16名	33名	49名	98%
11月	16名	33名	49名	98%
12月	14名	35名	49名	98%
1月	14名	35名	49名	98%
2月	15名	34名	49名	98%
3月	15名	34名	49名	98%
(のべ) 合計	189名	396名	585名	97.5%

※115号室・116号室の各夫婦部屋について、県の承認を得て1名での利用を開始。

そのため現在のところ満床でも49名まで。(但し入居率は、50床満床換算で算定)

令和2年度入退居者数

	男 性	女 性	合 計
入居者数	5名	10名	15名
退居者数	5名	9名	14名

年度内入居者の入居前の状況

場所 / 性別	男 性	女 性	合 計
自宅、家族宅	3名	9名	12名
病 院	1名	1名	2名
介護保健施設	0名	0名	0名
その他	1名	0名	1名
合 計	5名	10名	15名

年度内退居者の退居後の状況

場所 / 性別	男 性	女 性	合 計
自宅、家族宅	0名	0名	0名
病 院	2名	2名	4名
老人保健施設	0名	0名	0名
老人福祉施設	2名	5名	7名
死 亡	1名	2名	3名
合 計	5名	9名	14名

年度内月別入院者数(毎月末日現在の入院者数)

月 / 性別	男 性	女 性	合 計
4月	1名	1名	2名
5月	0名	1名	1名
6月	1名	1名	2名
7月	1名	0名	1名
8月	1名	1名	2名
9月	1名	1名	2名
10月	1名	1名	2名
11月	0名	2名	2名
12月	0名	4名	4名
1月	0名	2名	2名
2月	0名	1名	1名
3月	0名	0名	0名
合 計	6名	15名	21名

入居者の IADL 状況(認定外でも家族等の支援必要な者含む)

区分 / 性別	男 性	女 性	合 計	比 率
自 立	4名	5名	9名	18.4%
一部支援	11名	29名	40名	81.6%
合 計	15名	34名	49名	

一部支援内訳(重複あり)

区分 / 性別	男 性	女 性	合 計	比 率
入 浴	3名	13名	16名	32.7%
排 泄	2名	10名	12名	24.5%
歩 行	7名	25名	32名	65.3%
配 膳	5名	24名	29名	59.2%
通 院	5名	17名	22名	44.9%
掃 除	7名	5名	12名	24.5%
洗 濯	8名	7名	15名	30.6%

介護保険認定者数

認定外	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	合計
14名	3名	4名	15名	5名	8名	0名	49名

介護サービス利用状況(重複あり)

種別 / 性別	男 性	女 性	合 計
ヘルパー	6名	12名	18名
デイサービス	4名	10名	14名
合 計	10名	22名	32名

令和2年度年間行事実施内容は、コロナ感染症の為、ボランティア行事は中止

観桜会 4月6・7・8・9日	※内容：車窓で市内お花見 参加者 19名 職員 2名 (運転手 1名・付き添い 1名)
敬老会 9月11日	※内容：カラオケ等 参加者 37名 職員 7名 (山田施設長・栄養士 2名手伝い)
芋煮会 10月28日	※内容：食堂とベランダで昼食 (シダックスで調理) カラオケ 参加者：45名 職員 8名 (山田施設長・栄養士 2名・大石相談員)
クリスマス会 12月18日	※内容：ケーキと紅茶でお茶飲み会等 参加者 36名 職員 7名 (山田施設長・栄養士 2名)

- 9月末、下原地区クリーン作戦)
- 3月末、下原地区クリーン作戦
- 3月下原地区総会、コロナ禍の為中止
- 毎月1回月末頃、入居者懇談会

その他

- ① 入居者の健康管理等の支援
 - ・入居者の保健衛生を積極的に推進する為、白石市住民健康診断の受診支援 (職員が同行し送迎)
 - ・毎月1回、全入居者を対象に職員にて体重測定
- ② 毎月行われているボランティア等の受け入れはコロナ禍の為全て中止
 - ・毎月第1月曜日にふれあい会 (ボランティアあったかい)
 - ・七夕の飾りつけ (ボランティアあったかい)
 - ・毎月第3金曜日に朗読会 (朗読サークルレモンの会)
 - ・上記以外に月1度の行事 (主にあしたば白石サークル)
- ③ 園内販売 (市内等での買い物困難者の支援)
 - ・毎週火曜日 食品販売の岡崎商店 (コロナ禍の為、玄関で職員対応の注文販売)
 - ・毎週水曜日 ヤクルト販売 (コロナ禍の為、玄関で隔週販売)
 - ・毎週水曜日 白石クリーニング (利用者がある時のみ電話連絡)
 - ・第3月曜日 スパッシュランド白石 (コロナ禍の為中止)
 - ・年2回、(春、秋)コダマ介護支援事業部 (仙台) による衣料品お買物会 (コロナ禍の為中止)

令和 2 年度

居宅介護支援センター茶園

事業報告書

居宅介護支援センター茶園

令和2年度 居宅介護支援センター茶園 事業報告

- 1、要介護状態にある高齢者が可能な限り自宅に於いて、その心身の状態に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう配慮し、支援を行いました。
- 2、要介護状態にある高齢者の選択により、心身の状況、その置かれている環境等に応じ、適切な保健医療サービス及び福祉サービス、施設サービス等、多様な事業者との連携およびネットワーク構築により、総合的かつ効果的に介護計画が提供できるよう心掛けました。
- 3、要介護状態にある高齢者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、利用者へ提供されるサービスが特定の種類又は、特定のサービス事業者に偏ることがないよう公平、中立の立場を心がけました。
- 4、平成31年3月31日 在宅介護支援センター茶園の事業廃止から、それまでご利用していただきました。ご利用者様ご家族様はじめ関係機関の皆様に対し、ご迷惑をおかけしたことを、お詫び申し上げますとともに、令和2年7月15日 居宅介護支援センター茶園「居宅介護支援事業」再開のお知らせを「えんじゅ機関紙」「デイサービス茶園だより」および、医療機関・行政機関にパンフレットを配布したことにより、前年度実績ケアプラン延べ件数0件（実績なし）から延べ件数29件まで増すことができました。

1.居宅介護支援利用実績

(1) 利用状況 (令和2年7月15日～令和3年3月31日)

月	利用延人数	新規契約件数	契約解除件数	定期訪問者件数
7月	0	0	0	2
8月	1	1	0	2
9月	1	0	0	3
10月	4	3	1	3
11月	6	3	1	3
12月	6	1	1	4
1月	4	0	2	4
2月	3	0	1	4
3月	4	1	0	4
合計	29人	9人	6人	29人

(注) 定期訪問者：要支援・要介護認定者で介護サービスの利用実績がない者

2.会議等の実績

- (1) 居宅サービス計画策定会議 9回実施 (居宅サービス計画の検討会議)
- (2) 第1回白石市介護支援専門員連絡協議会 1名参加 (口腔衛生指導の注意点)
- (3) 第5回白石市介護支援専門員連絡協議会 1名参加 (白石市防災の取り組み)
- (4) 伯和会 産業医面談および衛生委員会の開催 12回開催 (毎月第4水曜日)
- (5) 伯和会 内部研修会の開催 7回開催 (毎月最終木曜日)

3.伯和会法人内 他事業所支援

- (1) 地域密着型デイサービスセンター茶園 8:30～9:30 朝送迎支援
16:30～17:30 夕送迎支援
毎日(2時間×20日)40時間(5日分)
- (2) 軽費老人ホーム ケアハウスやまぶき
毎月2日間(8時間×2日間) 16時間(2日分)

事業報告の附属明細書

令和2年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人伯和会